

現代宗教家の覺悟

馬 場 惠 信

七尺離れて師の影を踏ますと云ふ諺があるが、此れは單に學問、技藝を教へて貰つたから、ちよつと敬意を表して七尺離れて云云の意味ではあるまい。昔の人の心では更に一步を進めて、師匠に對する報恩の觀念から、たとひ師の影を踏むのすら畏れ多いと云ふ道念を本とした諺である。

凡そ人間として最も尊ぶべき精神は報恩の觀念ではあるまいか、人間の他動物と異なる唯一の點は、恩を知り恩を報ずると云ふ点にあるのである。

而るに今や此の報恩の美德が世上いづれの社會、いづれの階級にも失はれて居る一般の通弊である特に學問する者が、師に對する精神、態度に於て其の顯著なるを見るのである。

我が君父同原の國体に相應しき、我が忠君愛國の國体に相應しき日蓮主義の宗教に來つて其の修養を全ふせねばならない。日蓮聖人の平生の主張は勿論、法華經の見地によるのであるが、併し乍ら、聖人の眼中には、法華經の外に日本國を見ず、日本國の外に法華經はなかつた。されば、開目鈔の中に「此の經は内典の孝經なり」と仰せられて、眞の孝道は唯法華經にあり、斯の孝道は即ち日本國に體現して居るとの意義から出た言葉ではあるまいか。

夫れ國は法に依て昌へ、法は人に因つて貴し、國亡び人滅せば、佛を誰か崇むべき、法を誰か信すべき哉。先づ國家を祈つて須らく佛法を立つべし。(立正安國論)
世を安んじ國を安んずるを忠と爲し孝と爲す。(一昨日御書)

我れ日本の柱ごならん、我れ日本の眼目ごならん等と誓ひし願やぶるべからず。(開目鈔)
と仰せられた。

皆な悉く深大悠久なる法華の經意から出發した大信念の絶叫なのである。日蓮聖人の知法思國の御精神や、至忠至孝の御信念は、それが唯だ言語や文字の上のみ現はれて居るのでなく事實身を挺して國體觀念の徹底に努められた事は、日蓮聖人の御奮闘三十年間の血涙が明かに此れを證して居るのである。

眞に國體觀念を徹底せんには、日本國體の解決書たる法華經に聽き、眞に宗教家たらんには、日本の柱日蓮聖人の御意を意とせなければならぬ。かくて内は以て天壤無窮の皇運を扶翼し得べく外は以て日本建國の大使命を完成し得べき、眞個、宗教的自覺を喚起するのが、現在宗教家の覺悟である。

感想 『廢坑の后に立ちて』

門 田 正 孝

現在の社會は不況の二字に全く包まれて居ると云ふ事は毎日の新聞紙上で誰人も認識して居る。特に九州のナンバーワンとして誇りし筑豊炭田の幾多の炭坑も不況の二字に襲はれて、輝しい電燈の光りと賑やかなエンヂンの響は次から次へと消失されて行く！かくして幾多の失業者の數は日に増し多くなつて行くばかりである。此の失業者は明日の日のパンを得として、職を求めて町から村へ